

元気づくり講座 朗読を楽しむ会 言の葉

声で読む楽しみ、伝える感動 朗読で物語に 命を吹き込もう！

朗読とは、字を読む、書いてあることを声に出して読む。その通りなのですが、朗読修行中のわが身を振り返ってみても、独りよがりの世界になりがちなのそこにはもっともっと深い世界がありました。取材・文/桜井洋子

読み方よりも物語の流れや 登場人物の気持ちが大事

ここは世田谷区立鎌田図書館の一室、13人の中高年女性がプリントを手に座っています。大声で読み始めました。「アメンボ あかいな あいうえお」から「外郎売」へ。朗読する前の大切な口の準備運動です。図書館が主催する初心者向けの朗読講座(6回)の第2回、今日のテキストは向田邦子作「かわうそ」です。室内はシーンとして緊張感が漂い、一人ずつ順に読み進めていきます。

講師は区内4カ所で朗読教室「言の葉」を開いている飯田すみえさん。一人読み終わるごとに良かったところを褒めます。しかし一番丁寧に時間を割くのは、読み方ではなく物語の流れや登場人物の気持ちの説明です。

「朗読は、活字に命を吹き込んで一つの作品をつくる作業だから、まずは読み手が内容を十分理解す



鎌田図書館のスペース



数少ない男性会員も楽しんで参加しています

ることから始めるんです。声や読み方のテクニックも大切ですが、それは次の段階」と飯田さん。

朗読は若さを維持できる 発表の場の大切さも実感

昨今、朗読を聞くだけでなく自分でやってみたいという中高年女性が増えています。

「物語を自分なりに命を吹き込んだ作品に仕上げるには、最低20回は読むことになります。その際、文字を追いつながら声を出し、聞き手に伝える作業は自然に脳を活性化させるでしょう。お腹から出す息や正しい姿勢にも気を遣います。口を動かすと顔の筋肉が緩み表情が豊かになります。毎日1回は声を出して、若さを維持しましょう」と飯田さんは続けます。さらに「教室に通うみなさんにとって、それぞれ練習を重ね、工夫を凝らして完成した朗読を発表する場も大切」とのこと。教室では、数人ずつに分



人の朗読を聞くのも大切な勉強



主宰の飯田すみえさん

ワンポイント

【朗読を楽しむ4つの思い】

1. 声で読む楽しみ
2. 伝える感動
3. 表現する面白さ
4. 発表する喜び

かれ毎月、10数カ所の福祉施設などへ朗読ボランティアとして出かけます。作品を他人に伝えられるか大事な勉強の場でもありますし、聞き手と感動を分かち合う手応えを感じたときの喜びは格別だと言います。

自分が楽しむことができ、しかも健康になり、物語を通して人とつながることができる朗読。中高年に人気があるのもうなずけますね。「でも、男性陣がもう少し多く参加して下さるとうれしいのですが」と、最後に飯田さんが添えた言葉が印象的でした。

●問い合わせ

☎090-1257-2875(飯田さん)

朗読を楽しむ会 言の葉

練習日 第1・3火曜・木曜

10:00～13:00

または13:00～16:00

場所 世田谷文学館ほか区内で開催

入会金 2000円

月会費 3000円(月2回)